

簡素で効率的にー 狛江市定員適正化計画と人事管理について

問 ①105名の定員削減目標。職員定数の考え方は。

答 ①今後とも市民協働、アウトソーシング、事務改善を通じて削減を図る。②民間活力の導入形態には民営化、民間委託がある。さらに市場化テストも研究・準備が必要と感ずる。③政策目標に基づき効果的かつ効率的に事務事業を処理し得る組織とする。

高橋 清治

食育について

問 ①食の乱れが止まらない。偏った栄養、不規則な食事、欠食、生活習慣病増加、過度の痩身志向、食品の安全性、自給率の低下、伝統食文化の喪失等。これを心配し食育基本法が制定された。所見は②この法律により全庁的、全市民的事業展開が求められる。所見は。

答 ①知育、徳育、体育の基礎となる食育の方向性が固く示されたことから、市としても食育推進を図る必要があると考えている。②一人ひとりの問題として、あらゆる分野での食育推進活動が期待されており、統一かつ組織的な展開が必要と認識している。

インフルエンザ(新型)対策について

問 ①通常型インフルエンザのワクチン準備は②新型インフルエンザが心配だ。大正7年のスペイン風邪では全世界で4000万人、日本で39万人が死亡した。WHO、国、都府県は警戒態勢をとっている。市ではどうか③有効とされる抗ウイルス剤「タミフル」の準備は。

答 ①昨年の実績以上を確保設置。なお状況によっては、市長を本部長とする新型インフルエンザ対策会議を設置③国の情報によると1200万人分、さらに国と都道府県でそれぞれ1050万人分を備蓄予定。

行政改革について

問 ①難しい課題を先送りしてきた行政改革の16年度の進捗状況とその評価は。②市職員を計画の480人体制にするには行政サービスのあり方や事務処理の仕方等の見直しが必要である。平成21年度に実施するならばその道筋を早期に検討すべきと思うがどうか。

答 ①おおむね着実に計画が遂行されてきたと考えている。計画期間の後半にかけて、少しでも最終目標に近づけるよう全力で取り組む。②狛江市アクシヨンプランの中で、できる限り具体的な方向性を示したい。

藤田 鋭

マンション耐震偽造問題について

答 ①保育所のあるべき姿を市民福祉推進委員会でも審議、検討②拡大の必要性は認識③世帯指数等で同点の場合、兄弟は優先するよう規則改正④利用者への対応や定員枠の拡大を検討⑤研究・検討⑥箇所数と日数の拡大を研究⑦一時保育など積極的に対応していく。

田辺 良彦

自立した魅力ある都市として発展していくために

答 ①利便性のメリットはあがるが、規則的運行が可能か、また営業の問題や市内産業振興といった面もあり、慎重に対応する必要があると考える。②横断歩道設置については警察へ要望しているがまだ回答はない。道路管理者として実施可能な安全対策を検討していきたい。

国による増税政策のもとで、市民生活を守る取り組み

答 行政は、消費者と農業・商業・工業を営む事業者との情報交流のできる環境や仕組みづくりに努め、その中から得られた課題や狛江の現状を客観的に把握し、小さな街・狛江の特徴を生かした産業振興政策が必要と考えている。

地域経済活性化がまちづくりの基本ー 商業振興政策について

問 ①新・元気をさせ商店街事業。都から市負担案が提案された。施策の有効性を考え存続すべきと考えるが、市長の見解は。②共通ポイントカード。社会情勢の変化や消費者の利便性を鑑みて、E.d.y・Suica等広域的カードへの移行を検討する考えはないか。

答 ①事業効果については評価をしていない。都から一部負担の提案を受け市長会で検討しており、その経緯を見守りたい。②消費者の利便性の向上に役立つ面があるが、広域的な電子通貨が狛江市の小規模事業者の経営基盤の安定に役立つのか研究を要すると考えている。

都市計画道路(水道道路)の整備について

問 ①水道道路は通行車両増加、狭い歩道、沿線住宅増大等、危険性が大きく整備が求められる。所見は②都の第2次事業化計画に水道道路は入っているか③平成18年度からの第3次計画に入ると④第3次計画に入らないと今後10年間整備の可能性がなくなる。所見は。

答 ①重要な道路網の一部であり地域発展のためフル規格での整備が必要。②第2次計画路線である。③第2次に比べてかなり厳しい都財政下での抽出であるため予断を許さない状況である。④当該路線整備の必要性を強調し第3次計画への採択を都へ働きかけている。

白井 明

安全な「まちづくり」について

問 ①都市計画マスタープラン策定後の事業の実施状況と今後の取り組みは。②マンション等の建設時に道路は、その敷地のみを拡張であり、前後は4m未満の所もある。計画的に進めるため道路整備計画の策定を。③市内の建築物耐震偽装問題の現状と今後の対応は。

答 ①調布3・4・16、3・4・4、小田急側道、調

西村 あつ子

子育て支援の充実を

問 ①公立保育園の充実はどう考えているのか。②産休明け保育の早期拡大を。③兄妹は同一園入所を。④延長保育は定員枠を外し登録制ですべてを対象に。⑤園庭開放は全園実施を。⑥学童保育所の午前中開放の拡大を。⑦和泉児童館の有効活用を。

すみよいまちづくりについて

問 ①水道道路小田急バス宇奈根線を南部地域の遅れた交通利便性改善のためバスを増便し、二子玉川まで延伸するよう市として小田急バスに要望していただきたいがどうか。②岩戸北4-9付近松通りの交通安全対策で、車両に減速させる対策をとるべきだがどうか。

産業振興で活気のあるまちづくりを

答 ①所得課税の増、補助金の・普通交付税・臨財債の減を合わせて10億8930万8000円②11月末現在で市税0・3%、国保税1・1%向上。長期滞納者へは、預金・給料調査を行い差押を前提に納税交渉を進める③基本条例施行の15年度以降、約5000人。

鈴木 えつお

平和憲法を活かした推進について

問 憲法9条を変えて日本を戦争する国にしようという動きが強まっているが、憲法を守り活かすことこそ大切。憲法や市平和都市宣言をどうとらえているか、また7月の「平和フェスタ」の評価と今後の取り組み、「語り継ぐ戦争体験」第2集の発行について伺う。

答 戦争放棄、交戦権の否認を狛江市、狛江市民の行